



めげずにやり抜く

# 世界遺産PJ(プロジェクト)

無形文化遺産

Intangible Cultural Heritage

西山 巍

(一社)全日本愛石協会副理事長

(一社)日本水石協会理事

愛石クラブとよた会長

千歳愛石同好会顧問



『北海道経済』5月号の記事と表紙

## 北の国から

盆栽水石文化の「世界遺産登録の実現は、推進団体にとどまらず、私たち日本人にとっても新たな一歩を刻むことにほかならない」。月刊『北海道経済』5月号が「われらの」世界遺産プロジェクトに、こんな力強いメッセージを發してくれました。

『北海道経済』は、旭川市を中心とする北海道の政治、経済、文化の話題を発信する雑誌です。時節柄、コロナ関連の記事が多い誌面でしたが、「盆栽・水石・ユネスコ・世界遺産登録」等々の文字が連なる雑誌の中ほどの4ページは異彩を放っていました。地元盆栽・水石団体の現況紹介の中で、「益人プロジェクト」と称する文化保存活動に熟練パワーが発揮されている、との記述には快哉を覚えました。文中では世界遺産プロジェクトの経緯や、豊田市で開催した「小さい石の展示会」の意義にも言及いただきました。

本件に関して、3月末に東川町の齊藤庸氏(大雪盆栽会会長)からの電話で、北海道経済社の取材対応を要請されました。即日、担当の橋野勝広記者と電話インタビュー。翌日には関連資料を送付し、言葉足らずながらインプリントを終えて発行を待ちました。

手にした5月号では世界遺産の露出は良好で、記者のご尽力に感謝を伝えました。創刊から50年のこの月刊誌には地域の情報が満載、議会役所の動向や都市開発、生活関連の話題など、一読した後はすっかり「旭川通」になった気分でした。

数年前から北海道を訪れる機会が多くな

り、道内の石仲間との交流が深まりつつあります。齊藤氏とは2年前の札幌でほんの袖振り合っただけの間柄ですが、署名活動やこの度の一件、北の国からのご支援に感謝申し上げます。

旭川には石の先達も大勢いらつしやいます。石狩川(神居古潭)探石のご縁で、旭川水石会の水上祥邦会長の蔵石を拝見し、森谷隆一氏の「悠庵の水石」を拝読することができました。皆様との再会が楽しみです。

コロナ禍の下で、嫌われる「三密」「クラスター」は平時のコミュニケーションには欠かせないマナーです。「濃厚接触」「不要不急」と共に、今年の流行語大賞を競うことになるのでしょうか。

「千客密集の水石展」「水石文化の全国クラスター」、こんな平安な日常が戻るまでは、ぐっと我慢の石三昧、皆様ご自愛を。



旭川市の水上祥邦さんの自宅蔵石

# 世界遺産PJ(プロジェクト)

無形文化遺産

Intangible Cultural Heritage



水石文化の世界遺産登録署名実績表 (半年毎のグラフ)

西山 巍

(一社) 全日本愛石協会副理事長

(一社) 日本水石協会理事

愛石クラブとよた会長

千歳愛石同好会顧問

## 100,000円の使い道

まさか

まさかそんなことが起こるはずがないと思  
いながら、感染症パンデミック(世界的大流  
行)の話を知ったのは2008年11月のこと  
でした。講演会の講師は、このところテレビ  
でおなじみの岡田晴恵博士(当時・国立感染  
症研究所研究員)でした。その頃、猛威を振  
り始めた鳥インフルエンザウイルスが近い将  
来に変異して、ヒトからヒトへの感染がパン  
デミックに陥れるとの警告でした。社会機能  
の維持と企業活動の存続のための事前対応を  
急がねばならない、との講師の切迫感と、必  
ずやってくるオオカミへの危機感は、残念な  
がら私を含め当時の受講者には共有されな  
かったように思います。

10年を経た今、鶏や豚の大量の殺処分を何  
度悲しく目撃しても、今回の新型コロナウイ  
ルスの怖さは想像できなかったのです。厚生  
労働省が定めた「新型インフルエンザ等政府  
行動計画」は、89頁に及ぶ膨大詳細なマニユ  
アルです。今、これに沿って関係組織が日夜  
奮闘されていることに敬意を表します。

計画書は、ウイルスの伝播力が強まる第二  
波への感染対応が最も重要である、と警告し  
ています。コロナ禍で明らかになった日本の  
強みと弱み、生活の仕組み見直しの糧にしな  
ければなりません。

それにしても、大臣方の不揃いのマスクと  
事態を仕切る経済再生相。この二つ、良し悪

しではなく、少し違和感があります。

マスクと10万円、まだ届きません。(5月  
末現在)

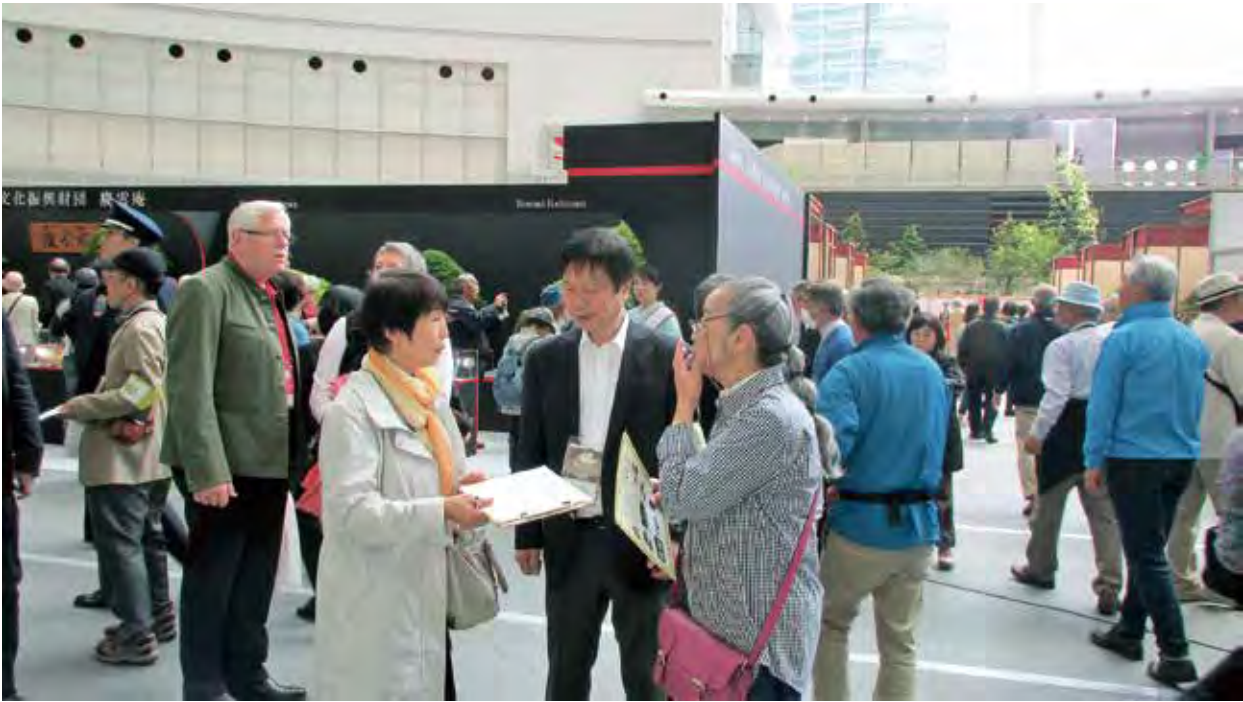
愛石社をつぶすな

新型コロナは日常を変えてしまい、カネが  
天下を回らなくなったのです。

気がかりは「愛石社」です。展示会が軒並  
み中止という前代未聞の事態は、展示石の掲  
載を収入源の約半分とする、この会社を緊急  
事態に陥れたのです。武士は食わねど高楊  
枝」と構える立畑編集長ですが、なにせ零細  
事業主(?)です。いくら「石にかじりつい  
て」頑張っても食えません。

月刊『愛石』6月・7月号では「愛石親  
派」の団体と個人が新企画の誌面を埋めまし  
た。松山市の市崎一章氏からの誌面での呼び  
掛けが奏功したのでしょう。先日、京都市の  
N氏からも支援策相談の電話がありました。  
苦しい時はお互い様、長年お世話になった愛  
石社への恩返しをしなければ、とのこととし  
た。思わず「浪花節」の世界に引き込まれま  
した。寄付金募集のご提案でしたが、相手は  
あの気質の「江戸っ子(生まれは紀州)」編  
集長です。『愛石』誌面への蔵石投稿で掲載  
料を支払うGIVE & TAKEの協力が自然な  
形かと思えます。全国の石友からのご協力を  
期待します。

コロナが去り、平穏な石の日常が戻るの



2017年、埼玉アリーナで開催された「世界盆栽大会」会場で署名活動をする立畑編集長



水石文化の世界遺産登録署名を訴えるポスター

しばらく先のことでしよう。それまでは「親派」からのこうした支援が必要でしょうが、これとて一時的なカンフル剤にすぎません。愛石社の安定経営のためには、月刊『愛石』の購読者数の確保と拡販が不可欠なのです。現在の購読者お一人が、もうお一人を紹介する形で協力はいかがでしょうか。協力者へのインセンティブは愛石社が提供することでしよう。「購読者倍増計画」、この世界の活性化に繋がります。

### 定額給付金の使い道

全日本愛石協会の定款と会則は「月刊愛石

を協会の機関誌と位置づけ、その普及を支援する」と述べています。愛石文化振興のための事業活動です。

私は、5年前に、「世界遺産プロジェクト推進」のためにと協会を頼りました。開始した署名活動には各地愛石団体のご協力をいただき、今日までに2万8913人の賛同を得ましたが、愛石社の支援なしでは達成できなかったのです。「愛石親派」の一人として私なりの「支援返し」に、まだ見ぬ定額給付金（10万円）を充てることを決めました。

署名目標10万人の進捗実績とマッチングさせて、署名1人につき1円を活動協力金として愛石社へ支払うこととします。5月末までの累計署名人数分2万8913円は政府から入金次第、10万人までの、残る7万1087円は、署名人数に応じて毎月の支払いとします。早期の満願成就を期待していますが、さて何年かかることやら。

「この指とくまれ」、協会理事と全国の親派有志がこのスキームに参加いただければ有難いことです。参加者5人なら5円。10万人達成時には50万円の支援返しが実現できます。目標への道のりを毎月確認する楽しみです。署名活動の再開促進も、切にお願い申し上げます。毎月のご連絡は、私、または愛石社へお願いします。

今月の月報、少し力が入ってしまいました。不悪。



「日本遺産」平泉寺白山神社参道 (福井県)

西山 巍

(一社)全日本愛石協会副理事長  
(一社)日本水石協会理事  
愛石クラブとよた会長  
千歳愛石同好会顧問

日本遺産が  
おもしろい

オリンピックが開催されてい  
たはずのこの時期、日本各地は  
外国人旅行者で溢れていたこと  
でしょう。年初からのコロナ禍  
が状況を一変させてしまいました  
。関係者の嘆息が聞こえてき

ます。

日本が観光立国の取り組みを始めたのは  
2003年、「ビジットジャパン」キャン  
ペーンからです。その後2008年に観光庁  
が新設されて本格化した活動が、2013  
年の東京オリンピック開催決定で加速され  
ました。訪日外国人数(インバウンド)は  
数年ごとに倍増する勢いで推移し、昨年は  
3千2百万人に迫り、今年4千万人を目標  
としていたのです。景観保全や入国ビザ緩和  
等、長年にわたるハードとソフトのインフラ  
整備が奏功したことは確かでしょう。観光は  
文化探しです。遠い国で異文化を体感する刺  
激、近隣で類似習慣を確認する面白さ、こん  
な組み合わせでインバウンドが起きている  
のではないのでしょうか。

そんな中で、2015年から文化庁が始  
めた「日本遺産」事業は興味深いものです。  
『各地の有形無形の文化財を核とした歴史的



訪日外国人の推移

な「物語」を「日本遺産」として認定し、国  
内外へ発信して地域の活性化を図るもの」と  
説明しています。5年間期限のこの事業は  
今年で終了、全国で104件が認定されま  
した。各県・市町村が申請した「物語」(文  
化庁は「ストーリー」と称しています)は、  
「文化の観光案内」として出色です。文化財  
を守る目的の「世界遺産」が商業利用を嫌う  
のに対し、地方の活性化を前面に打ち出した  
「日本遺産」に分かりやすさを感じます。

「かかあ天下・ぐんまの絹物語」「石から読  
み解く中世・近世のまちづくり越前・福井」  
「鬼が仏になった里・くにさき」等々、物語  
のタイトルも興味をそそります。福井の物語  
には、笏谷石、九頭竜川石が登場します。  
皆様方の地元の日本遺産を訪ねるのも一興で  
す。

三重県の「海女に出逢えるまち鳥羽・志  
摩」は昨年認定された日本遺産です。十年余  
以前から韓国の濟州島と共同でユネスコの無  
形文化遺産への登録を目指していた案件で  
す。しかし2016年に、韓国単独の「濟州  
海女文化」としてユネスコに登録されまし  
た。日本国内での文化財指定のタイミングが  
合わなかったとのこと、日韓の連携ができず  
残念ですが、海女の皆さんには、日本遺産の  
「海女文化」を誇り高く伝承していただきた  
いと思います。

全国各地に石と盆栽の「物語」は数多く存  
在しているでしょうが、水石・盆栽文化は地  
域性のない「日本文化」です。世界遺産(無  
形文化遺産)を目指さなければなりません。

西山 巍

(一社)全日本愛石協会副理事長

(一社)日本水石協会理事

愛石クラブとよた会長

千歳愛石同好会顧問



(上) モナコ盆栽倶楽部の皆さんと  
右から2人目がアムドーニさん

(中) アルプスにて探石

(下) ジュランス川石 (アムドーニさん自採)

フランスの助っ人  
「つながり」「複属」「包摂」

「画面を見る時間が先週より20%増えました」

インスタグラムを始めて3年。その閲覧、投稿、返信に時間を費やすこともありますので、時々こんなメッセージがiPadに現れます。写真で見る情報は見飽きません。私の場合は「石」中心の発信ですが、未知の相手とのデジタルな接触と、知人とのカジュアルなやりとりを楽しんでいます。大きくなっていく外界との「つながり」が新鮮で刺激的です。

そんな交信の中、「世界遺産PJ」に関心を示した1人のフランス人が愛石クラブとよたへの入会を希望してきました。43歳、マルセユ在住のエンジニア、アムドーニ氏です。2010年から盆栽を学び、2014年には岡崎市の盆栽大樹園に短期の弟子入りした人物で、ヨーロッパでは水盤作家として著名ですが、最近石への興味が強まり、南フランス、イタリアで愛石家として活躍中です。さら

には、折り紙制作も玄人はだしの腕前、昔でいう「変な外人」と思いきや、筋金入りの日本文化の伝道師だったのです。早速横断幕を作り、ヨーロッパでの世界遺産署名活動の準備も始めてくれました。異国の助っ人との「つながり」を大切にしたいと思っています。

『インターネット普及から20年以上を経て、ソーシャルメディアなどのICTサービスが多くの人々に利用されている。これらにより「つながり」が創出されることで、多様な社会活動、多様な働き方のための複数の組織に少しずつ所属する「複属」が可能となることにより、インクルージョン(包摂)に貢献する可能性について考察する』。カタカナも漢字も理解困難ですが、「複属」の選択肢に愛石団体を加え、「包摂」を高齢者と読み替えればいかがでしょう。平均年齢70歳、斜陽で脆弱な日本の水石界です。インターネット、SNSを通じた更なる情報交換で活性化を目指さなければなりません。

Facebook・Twitter・Instagram・Lineの利用者は世界で40億人(重複含む)、この大市場に対峙するとき私の闘志は燃えますが、もはや攻撃力不足、若い世代の愛石家に「助っ人」を求めのみです。

コロナの収束が待たれます。これからどんなカタカナ語が出るのでしょうか。日本語の「三密」がWHOで英訳された由。

# 愛石

A i s e k i

# 11

November 2020  
No.172/446

特別号  
Special Issue



新船石 20×8×13 西山 巍氏蔵

特別企画

## 愛石譜 西山 巍さん

Nishiyama Takashi

特別企画

酒井正男さん 誌上個展-③  
瀧山徳雄さん 観賞石の分類-④

誌上石展

第7回 日本観賞石展  
日経水石会 第83回 水石展 in 春花園  
日水協広島支部石展

刊行「愛石」 立川雄晃  
〒101-0036 東京都千代田区神田北廣徳町2番地 神田事務所ビル402  
電話 03-5577-6121 FAX 03-5577-6122  
E-mail: www.aiseki.com  
E-mail: aiseki@netcom.ne.jp



## 西山 巍さん

愛知県豊田市在住

## 愛石譜

全国愛石家訪問

晴れた日には伊吹山や鈴鹿山脈  
名古屋駅ビルなどが見渡せる



同様に幼なじみの奥様紀美代さんと（ベランダで）

## 石文化の無形文化遺産登録 と石趣味の大衆化のために

2014年に大槓（食道がん）を患った。4カ月の入院を余儀なくされる間、「和食」の無形文化遺産登録（ユネスコ）を知り、古来よりの伝統文化である「水石」をも世界遺産にしなければ、と使命感を覚え、余命を推やる決意をする。この瞬間から「水石・彼哉無形文化遺産」登録運動が始まった。

それから6年の歳月が流れたが、運動は思うように進まず苦勞の連続である。協力を呼びかけるつもりで、本誌に毎月寄稿している「めげずにやり抜く世界遺産P」は54カ月目になるが、「一緒に推進してくれる若手活動家が現れないのが悩みの種である。

「理解してくれる愛石家が少なくてね。愛石界の衰退を、どこか余所事のように感じているんですよ。この文化は絶対を守って、絶やさないように継承していかななくてはならないんですけどね」と嘆く。

一方、石趣味の大衆化を目標の一つに掲げる。高齢化が進む中、愛石界の体質も気づかぬうちに古くなる。温故知新で改善の余地が多いと思う。

「このままでは愛石界は時代に取り残される」と危機感を覚えたことが、2年前から始めた「小さい石の展示会」という形で実を結んだ。難しいことは言わず誰にでも門戸を開いて、石に対する興味を持ってもらえれば良い、と考える。それが石文化の継承につながっていく。

マンション生活が多くなった現在、大きい石は飾る場所に困ることが多い。小さい石ならテレビの横や本棚に簡単に飾れる。時代に即応した観賞石のあり方を考える時が来ているのではないかと。

（にしやまたかし／和歌山県海南市出身 77歳 愛有クラブとよた会長・一般社団法人全日本愛石協会理事長・一般社団法人日本水石協会理事・工芸愛石同好会顧問）

※ 28頁「めげずにやり抜く世界遺産P」参照



古谷石 23×12×15



玄海石 22×13×13

撮影/西山 壽、立畑健児



古谷石 19×10×11



(左) 横栗川石 14×13×7 (右) 天竜川石



根尾菊花石 12×9×5



撰栗川石 13×10×8



南生山石 14×14×11



水石山石 11×8×6



神居古潭石 16×9×7



壺石 (オーストラリア産) 6×8×5



湘南海岸石 10×7×4



■平石 15×11×8





佐渡海岸石 3×2×2 西山紀景代



砂漠石 (オーストラリア産) 7×8×6



神農古潭石 20×6×12



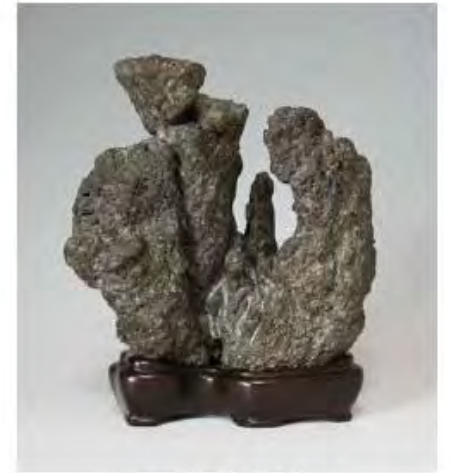
段戸川石 10×21×3



瀬田川石 23×25×10



根尾菊花石 7×17×6



犬上川石 20×21×10



天竜川石 12×16×10



湘南海岸石 6×14×4



神農古潭石 8×30×6



サンゴ (オーストラリア産) 10×13×8



\_\_\_\_\_



平勝寺

西山 巍

(一社)全日本愛石協会副理事長  
(一社)日本水石協会理事  
愛石クラブとよた会長  
千歳愛石同好会顧問

我が町からも無形文化遺産が

注意を怠らずに過ごしましょう。「日常」が乱されてから早や半年が過ぎます。ユネスコの世界遺産事業にも支障が出ているようです。

本年6月に中国で開催予定だった世界遺産委員会が延期され、その後の日程も未定のままです。今年には「奄美大島、徳之島、沖縄北部、西表島」が提案されて世界遺産登録が実現する運びでした。来年に予定されている「北海道・北東北の縄文遺跡群」の審議にも影響が出てくるのでしょうか。懸念されます。

一方、無形文化遺産委員会は11月にジャマイカで開催され、日本の「伝統建築工匠の技・木造建築物を受け継ぐための伝統技術」が審議される予定です。茅葺、瓦葺、左官、建具ほか、計17件の「選定保存技術」がその対象です。この次の2022年に登録を目指すのは「風流踊」です。「衣装や持ち物に趣向を



綾渡の夜念仏

「新しい日常」Withコロナ」、新語が飛び出します。衰えないコロナ禍のもと、これらの言葉は優し気で防衛的、先走り感と諦め感も交錯します。すぐ隣の見えない相手に対しては、もっと攻撃的な言葉がないものかと思っていた矢先に、「GOTOトラベル」は「命令形」だねという知人からのコメント。いやはやコロナに右往左往する毎日ですが、石友の皆さん、

UNESCO 遺産事業	登録件数 (2019年)	
	世界	日本
①世界遺産	1121	23
文化遺産	869	19
自然遺産	213	4
複合遺産	39	—
②無形文化遺産	463	21
③世界の記憶	427	7

日本の無形文化遺産：21件の内訳

重要無形文化財 (能・歌舞伎・和紙ほか)	8
重要無形民俗文化財 (神楽・田楽・山鉾ほか)	12
文化審議会決定 (和食)	1

凝らし、笛太鼓などに合わせて踊る伝統民族芸能」で、全国各地の重要無形民俗文化財37件が選定されています。私の住んでいる愛知県豊田市の山里に伝わる「綾渡の夜念仏と盆踊」も含まれていることを知り、心躍る思いをしています。綾渡町は人口わずか90人の限界集落に向かいつつある過疎の村です。町内の平勝寺で行われる念仏行事と盆踊りを体験しようと待ちましたが、コロナで中止となりました。37件の一つ、岐阜県の「郡上踊」は、例年30万人が訪れる大規模イベントですが、当地の数千人で営まれる静かな「夜念仏」にはクールな日本を感じます。来年は、我が町の「世界遺産」を体感したいと思っています。

日本からユネスコへの無形文化遺産の申請は2年に1件です。次の次は2024、26、28年へと続きます。我らの「水石盆栽・無形文化遺産」の実現に向けて関係先へのアプローチを強めなければなりません。

それにしてもこの連載のタイトル「めげずにやり抜く」からは孤独感が漂います。皆様からの支援を期待します。

## 西山 巍

(一社)全日本愛石協会副理事長  
(一社)日本水石協会理事  
愛石クラブとよた会長  
千歳愛石同好会顧問

## 白内障・一石二鳥の探石行



壺阪寺御朱印



司馬遼太郎著・街道をゆく 43巻『濃尾参州記』

ずぶ濡れで「万華鏡」の中にいるようでした。白内障の手術中に私が「見た」光景です。加齢による「人並み」の症状でしょう、視力が低下し、眩しさの感じ方が違ってきました

ので、「信号機の青色が見えにくいのですが」と、町の眼科医院を訪ねたのが2年前でした。「赤が見えれば大丈夫」と、冗談交じりの診断の後、点眼を続けましたが、運転免許証更新に間に合わせるべく、今年5月に4日間の入院で左右両眼の手術を受けました。知人から体験話を聞いてはいましたが、緊張しながら手術中に「見た」のが万華鏡でした。診断書の手術名「水晶体再建術」(超音波水晶体乳化吸引術+眼内レンズ挿入術)は1970年に日本で開発された術式で、今、国内では年間140万件の手術が実施されているとのこと。白内障は社会的失明(矯正視力が0.1以下)の病因ではなくなりつつあるのです。赤・青・黄色、信号機を見るにつけ人工レンズの有難さを実感しています。

取材に訪れています。1995年10月です。その4か月後に彼が急逝し、絶筆となった著書『街道をゆく・43巻・濃尾参州記』には、この病院と白内障に関する興味深い記述があります。古く江戸時代の治療や、晴眼を取り戻した曾野綾子氏、さらには壺坂靈験記の「お里・沢市」の登場などが専門医との対話で展開されます。信心と夫婦愛が奇蹟を起こす浄瑠璃の主人公・座頭「沢市」は、谷に身を投げた衝撃で白内障の濁りが落ち、視力を取り戻したのではとの推察、「靈験」を医学で検証する下りに得心したものです。

ちなみに、曾野綾子氏が40年前に見た術中の景色は「天の川」でした。(著書『贈られた眼の記録』)

信仰心の薄い私が「人並み」に西国三十三所を巡り始め、この壺阪寺(南法華寺)を訪れたのは1993年のことでした。道半ば、21寺で頓挫しましたが、昨年「1300年づく日本の終活の旅・西国三十三所観音巡礼の旅」が日本遺産に登録されたのを機に、残る12寺を目指す気持ちが湧いてきました。心の終活です。

改めて地図を見ました。何のことはない、札所はすべて探石スポットと重なります。「一石二鳥」、靈験あらたかな観音様に「一生一石」の願を掛けながらの探石行に期待が膨らみます。

「魔訶般若波羅密多…」、コロナ収束、世界遺産PJ成就、ボケ防止、それにしても願ひ事が多すぎます。

西山 巍

(一社)全日本愛石協会副理事長  
(一社)日本水石協会理事  
愛石クラブとよた会長  
千歳愛石同好会顧問  
イタリア愛石協会会員

無形文化財に関する文化財保護法の改正内容が報道されました(2020・10・19/共同)。

現在の国指定の「重要無形文化財」と「重要無形民俗文化財」のほかに、「登録無形文化財」として「無形文化財」と「無形民俗文化財」を新設し、幅広く文化の保護と継承を支援するというものです。間違い探しか謎解きのような用語、お分かりになる人！

要は、国が「指定」する重要な無形文化財だけでなく、当事者が保存を必要と判断する消滅危機にある無形文化の「登録」制度が導入されるものと理解します。手続きの詳細は不明ですが、来年度の法案成立が待たれます。

実は、ユネスコに登録されている日本の無形文化遺産21件のうち、20件は「重要無形文化財」と「重要無形民俗文化財」からの横滑



国際的になってきた世界遺産PJの協力者の皆さん  
(右上) イタリア (Andora)  
(右下) アメリカ (Atlanta)  
(左) モナコ (Monaco)

無形文化財・無形文化遺産・国際化

りです。「和食」は例外です。基本的には、厳しい選定過程を経て指定された無形文化財であることが、ユネスコへ申請するための適格要件であったのです。今回の法改正が伝統文化の保護を制度的に拡大する主旨であるでしょうから、我らの「水石盆栽文化」の世界遺産プロジェクトには朗報です。霧にかすんでいた道標(丁石)が見えてきました。水石界、盆栽界の推進体制強化への準備が必要です。楽しみです。

もう一つ朗報です。世界遺産プロジェクトへの賛同者が国外で増えつつあります。「愛石クラブとよた」の外国人会員 Sani Amdouni 氏(43歳)は、フランス南部マルセーユ在住の水石盆栽愛好家です。プロジェクト推進役に手を上げ、現役の仕事のかたわら、休日は各地に出向きPR活動に取り組んでいます。10月にはフランス愛石協会(AFAS)、イタリア愛石協会(AIAS)とヨーロッパ水石協会(ESA)から、世界遺産PJへ協力する旨のメッセージをいただきました。すでに130人の署名も届きました。愛石クラブとよたの「フランス支部」が頑張っています。

欧州に続き米国とアジアから支援を得て、国外からもユネスコへの道標(mile stone)を辿ることが出来れば望外です。1丁と1マイル、道標の「石」を辿る楽しみが増えます。「外国支部長」募集！

コロナ禍ですべてが停滞した2020年でした。長引きそうなこのウイルス、慎重に果敢に2021年の活動を進めたいものです。



夕張川石(千歳愛石会・中山源七会長採取) 21×18×8(左)

## 西山 巍

(一社)全日本愛石協会副理事長  
(一社)日本水石協会理事  
愛石クラブとよた会長  
千歳愛石同好会顧問  
イタリア愛石協会会員



愛石クラブとよた、矢作川探石会

自動車運転免許証の更新を済ませました。5カ月も前に始まった手続き、日時指定の認知機能検査、予約が込み合う高齢者講習、その都度、講師の上から目線と論し口調に辛抱しながら、ようやく警察署での最終手続きです。平時と違うコロナ禍、すべてに長時間を要しました。とかく高齢ドライバーが危険視される世の中ですが、交通事故に関して「世間一般では高齢運転者による事故が増加している印象があるが、実際の統計では事故件数は若干の増加にとどまり、免許保有者数で揃えればむしろ減少している」と、損害保険料率算定機構がデータとともに報告しています。やはりそうなのだと思え、高齢者への丁寧すぎる免許更新手続きに不満を覚えたものです。

## 「限界」に挑戦

とは言え、体力と注意力の衰えは自明、安全運転を心に聞かせて免許証を受け取りました。やれやれ。

高齢社会を象徴するに「限界集落」という言葉があります。「人口の過半が65歳以上の農山村集落は日常生活を維持する限界にあり、過疎が加速して消滅する」という30年前に提唱された学説です。

水石界への警鐘のようでもあります。ただ石の世界での65歳はまだ「壮年」、さらに10年ほどの年を重ねてようやく高齢愛石家と映るものです。しかしいかに元氣な集団であろうとも、世に言う後期高齢者会員が過半を占める団体は「限界団体」であると自覚しなければなりません。いま全国には愛石団体が290、この5年間で70団体が「消滅」しています。無くなったら趣味も文化も語れません。とりわけ文化は「仕組み」です。仕組みを維持する組織存続の備え、おさおさ怠りなく。

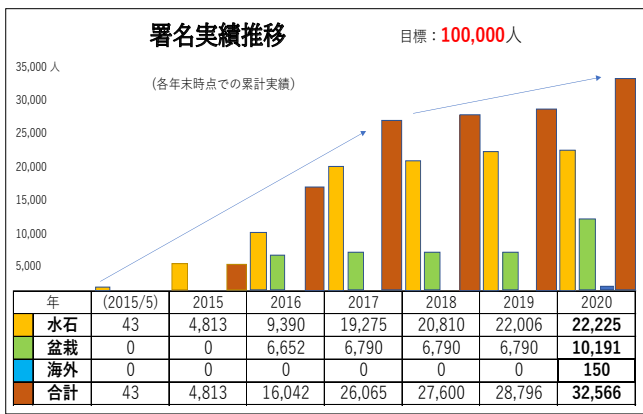
10年前に三十余人の会員を擁した千歳愛石同好会が活動不能に陥ったのは一昨年です。中山源七会長の呼び掛けに応じた3人が入会し、消滅を免れはしましたが、私を含む会員4人全員が高齢者、真正正銘の限界団体です。そんな中、先日、中山会長から石が届きました。シユーパロ湖上流の夕張川支流で採取した珍しいよもぎ系の2石です。1石は会員に届けて残る1石を手元で楽しんでいきます。

シユーパロ湖には、産業の「限界」で消滅した大夕張の町が水没しています。かつての炭鉱の賑わいを想像しながらこの石を眺める時、千歳愛石同好会を水没させてはならないと思うのです。

因みに、愛石クラブとよたは、会員数33人中75歳以上が12人(「限界比率」36%)です。

2021年は、「やる気の限界」に挑戦だ!





### 世界遺産PJ協賛団体

〈チェコ〉	<b>ESA</b>	<b>ヨーロッパ水石協会</b> European Suiseki Association (会長) Mr. Igor Barta
〈フランス〉	<b>AFAS</b>	<b>フランス愛石協会</b> French Amateurs Suiseki Association (会長) Mr. Pierre Chantry
〈イタリア〉	<b>AIAS</b>	<b>イタリア愛石協会</b> Association Italian Amateurs Suiseki (会長) Ms. Luciana Queirolo
〈フランス〉	<b>FFB</b>	<b>フランス盆栽連盟</b> French Bonsai Federation (会長) Mr. Philippe Massard

(※Amateurs Suiseki=「愛石」と訳した)

(上) 署名実績推移 (下) ヨーロッパの協賛団体

「命は物種。」

私が2度の肺炎で体験したICUは「向こう」に続く暗い回廊です。「こちら」へ連れ戻された喜びは忘れません。医療ひつ迫のなか、関係者へは3度目のご迷惑をかけることがないようにと慎重にならざるを得ない毎日です。命は物種。

「#石」が瞬時に世界の石友を繋ぎます。この際です、Facebookも開始し、さらなる拡散を自論みました。

維新前年に開催されたパリ万博を機に、日欧の文化交流が始まりました。昔 Japponism<sup>ジャポニスム</sup>、今 Cool Japan<sup>クールジャパン</sup>を代表する我が水石盆栽文化です。各国の支援を得てユネスコを目指しましょう。

## ヨーロッパからの支援

めげずにやり抜く  
世界遺産PJ(プロジェクト)  
無形文化遺産  
Intangible Cultural Heritage

西山 巍 Nishiyama Takashi  
(一社)全日本愛石協会副理事長  
(一社)日本水石協会理事  
愛石クラブとよた会長  
千歳愛石同好会顧問  
イタリア愛石協会会員



イタリア愛石協会 (AIAS) の石友  
左: Queirolo 会長、左から2人目: Amdouni 氏

コロナ禍で水石活動が停滞しています。本年2月に愛知県豊田市で開催予定であった「第3回小さい石の展示会」も準備途中で延期を決めました。毎年全国では200回を超える石展が開催されますが、昨年ほどはほとんどに縮小したのでしょうか。高齢者が多い水石界、老人が重篤化するというこの病气、しばらくは自粛しコロナ後に備えなければなりません。

この数カ月の私の日課は、欧州とのメール発信で始まりです。愛石クラブとよた会員「フランス支部代表」の Amdouni 氏は宵っ張りです。就寝前に送った私宛のメールは日本の早朝です。日仏の時差は8時間、先方の翌朝までにメッセージや画像を返信することが私の仕事となりました。打算的であるかもしれませんが、3年前に始めた Instagram<sup>インスタグラム</sup>は、PJ のこうした展開を期待してのものでした。SNS の「#石」が瞬時に世界の石友を繋ぎます。この際です、Facebook<sup>フェイスブック</sup>も開始し、さらなる拡散を自論みました。

1年の区切りで2020年の世界遺産PJを振り返りました。いまひとつ盛り上がりながらすることが出来ず、私の力不足をお詫びします。しかし署名活動は皆様のご協力です。日本盆栽協会各支部からの多数と、水石界からは国内に加え、初めて海外からも署名が届きました。賛同者の広がり感謝しています。(上表)

欧州もコロナです。互いの交流が滞るなか、フランス愛石協会の会長 Chantry 氏と会員 Amdouni 氏から水石、盆栽団体に世界遺産PJへの支援を呼びかけていただきました。欧州の主要団体(下表)が快く呼応し、署名活動が緒に就きました。昨年の海外署名150人はフランス、イタリア、ポーランドからの貴重なメッセージです。各会にはコロナ後の積極展開を約していただきました。

西山 巍 Nishiyama Takashi

(一社)全日本愛石協会副理事長  
(一社)日本水石協会理事  
愛石クラブとよた会長  
千歳愛石同好会顧問  
イタリア愛石協会会員  
フランス愛石協会会員

## 出前館 企業価値 文化価値



新しくできた世界遺産運動のポスター



愛石クラブとよた会員  
土屋美紗(つちやみさ)  
さんの作品  
昨年5月号の「愛石女子」にも登場して頂きました

CEOは最高経営責任者、COOは最高執行責任者、会長・社長とも訳される会社役員の英語呼称です。1年前に「CDO」が生まれました。出前館サイトを運営する会社「出前館」のテレビコマースサイトに登場する浜田雅功さんが就任した「役職」です。CDOは「チーフ出前オフィサー」(最高出前責任者?)の和英略語、いやいや素晴らしいネーミングに感服します。

「出前館」が米国のウーバーイーツと競いながら「出前がスーイスイ!!」と街を駆け抜けていま

す。この会社の設立は20年も前ですが、昨年3月の「EY」との資本業務提携後に売り上げは倍増、株価は4倍値を付けています。コロナ禍がビジネスの明暗を鮮明にする中で、飲食店、メニュー、配達、代金授受等々の膨大で複雑なデータを繋げるデジタル事業が追い風を受けたのです。機を見る起業家に脱帽です。

一方、日本の官民事業のデジタル化の遅れに危機感を持った政府は、数年前にDX(デジタルトランスフォーメーション)「2025年の崖」と

と危惧します。V S A N A北米鑑賞石協会のウェブサイトに数千人が訪問する現実や、E S A Yヨーロッパ水石協会の各国水石団体との密接な連携活動を知るにつけ、我が日本の活動の緩やかさが大いに気になるどころです。

デジタル化は、高齢を言い訳にしても避けることが出来ない変化です。全日本愛石協会と日本水石協会のDXが問われているものと自覚しなければなりません。

称して警告を發しました。デジタルデータに基づく事業システムの変革が急務で、怠れば遠からず崖にぶつかり、経済活動と企業価値に大きな損失をもたらすとの危機感です。社会の高齢化とシステムの老朽化が同時進行しているのです。奔放な出前館の事業展開がデジタル庁設立を加速させたのかもしれない。2024年にはアナログ固定電話網終了、マイナンバーカードの多機能化等々日常生活のルールだけでなく、社会の仕組みがDXで大きく変わろうとしています。

ゆるりと石を眺めて癒しの時間をと、世間にその楽しさを呼びかける



西山 巍 Nishiyama Takashi  
(一社) 全日本愛石協会副理事長  
(一社) 日本水石協会理事  
愛石クラブとよた会長  
千歳愛石同好会顧問  
イタリア愛石協会会員  
フランス愛石協会会員

## 署名クラスター拡大中

この頃は昔を思い出します。「空気のなくなる日」という映画をご存知でしょうか。1910年に地球に近づいたハレー彗星を題材にした小さな村の悲喜劇で、彗星の尾が地球を横切る5

います。郷里の田舎町には数軒の映画館があり、覚えているのは邦画の新富座と洋画はオリオン座。学校からの映画鑑賞は無料ですが、痛快シリーズの「ターザン」は映画代を親にねだって洋画館へ通いました。映画の翌日は、山の遊び場で縄につかまって「ア〜アー」、仲間同士でターザンごっこを楽しんだものでした。

分間だけ空気が無くなるというパニック物語です。息を止める練習をする子供達、ご馳走を食べながら死を覚悟する一家、自転車屋で空気の入ったチューブを買い占めるお金持ち、デマが飛び、悲喜こもこも右往左往の場面が浮かびます。昨年のコロナ当初のマスク騒動、その後の外出自粛と手洗い励行、じつところらえてワクチンを待つ今と重なり、記憶が甦りました。

そんな中、海外では善玉クラスターが発生しています。上の世界地図をご覧ください。ウェブ署名サイト「GoPetition」の「盆栽水石文化を守ろう」と呼びかけて、この2月に世界へ発信しました。昨年来検討してきたオンライン署名活動です。フランスの Sami Andoumi 氏(愛石クラブとよた会員)の協力を得て実現しました。地図上には署名人数が都市ごとに集約されてリアルタイムで表示されます。このクラスター、もともと大きく伝染することを願っています。緒に就いた海外活動も、このサイトと紙ベースの署名を合せてすでに500人に迫ります。

6年前に始めた世界遺産プロジェクトの署名活動では、これまでに国内で32000人余の賛同をいただきました。皆様のご支援にお礼申し上げます。コロナで委縮した文化活動が再開されるのも、もうすぐのことでしょう。プロジェクトの進め方と活性化について、関係諸団体と再検討する時期かと思えます。

世界に広がりを見せている署名実績地図 <https://www.gopetition.com/petitions/lets-protect-the-bonsai-suiseki-culture.html> で、どなたでも署名が出来ますので活用下さい(3月11日現在署名数 133)

61st

西山 巍 Nishiyama Takashi  
(社)全日本愛石協会副理事長  
(社)日本水石協会理事  
愛石クラブとよた会長  
千歳愛石同好会顧問  
イタリア愛石協会会員  
フランス愛石協会会員



## 時間差・温度差

『愛石』誌のこの「世界遺産PJ」月報は今回が61回目、6年目に入りました。原稿は毎月5日締め切り、翌月1日に翌々月号として発行されるルーティンですので、6月号(5月1日発行)は3月下旬に書き上げたものです(4月5日メ)。

月単位の情報提供は、その「時間差」に少々もどかしさを感じます。それを補うべく、SNSを通じて「石」と「愛石クラブとよた」と「世界遺産PJ」の話題を発信しています。真似事で始めたインスタグラムとフェイスブックですが、日時単位のホットな情報の受発信に大きな刺激を感じます。「時間差」は「温度差」。熱燐とぬる燐のように楽しみ方も自ずと違いますが、水石界唯一のマスメディア『愛石』に熱燐の刺激を求めることは出来ません。ぬる燐に合う味わい深い専門誌であり続けてほしいと願っています。

私は中学校(1955〜58年)ではバレー



3月7日、総会開催

ボール部に所属していました。当時はまだ9人制、上背がないのもっぱら中後衛の守備ポジションで頑張りました。その頃に6人制が導入されて、日本でのバレーボール人気が高まりました。後には、日紡貝塚の大松監督が考案した回転レシーブで、1964年の東京オリンピック女子優勝、1972年ミュンヘンでは、「時間差」攻撃の男子が金メダルと快進撃が続きました。目からうろこ、日本発の新技术が世界を勝ち進む展開に固唾をのんだものです。「時間差」からこんなことを思い出してしまいました。水石界にも新時代に合った新作法、新石展、新探石の試みがなされなければならぬと思うのですが、頭をひねってみましょう。

「時間差」——3月には愛石クラブとよたの総会を開催しました。このご時世で出席者は少なめでしたが、久しぶりの再会を楽しみ、今年の計画を話し合いました。石展と探石再開に心が弾みます。

今総会では女性役員が誕生しました。職業デザイナーで、昨年「愛石女子」コーナーに登場した土屋美紗さんです。若い世代と女性感覚で当会の運営に貢献いただければと期待しています。クラブのロゴマークやホームページ開設準備など、可視化が進みます。

「時間差」——愛石6月号が発行される5月1日〜2日は、愛石クラブとよたの展示会開催日です。コロナ禍で控えめの行事にしようとする前の石展案内も控えめに行いましたが、多数のご来場を期待する主催者側の矛盾、いやはや難しい世の中になりました。

西山 巍 Nishiyama Takashi

(社)全日本愛石協会副理事長

(社)日本水石協会理事

愛石クラブとよた会長

千歳愛石同好会顧問

イタリア愛石協会会員

フランス愛石協会会員



みやかわデンタルクリニックと石の掃除のためにいただいた歯石取りの器具(下)

「週明け出勤前に歯医者へ行くこと」と「自動車販売店で車の購入を迫られること」の2つが一番嫌なこと例えとして、二十数年前の米国で語られていました。耳に響く金属音、歯科治療の緊張感はいずれも同じ、さらに週明けという仕事の辛さが待っています。もう一つ、ぶらりと立ち寄った車のショールームで長時間の販売攻勢に遭ってしまったお客の辛さも競争の本場ならではの光景です。米国流真偽半ばのジョークは世相を語っています。

## ボツリヌス菌・コロナウイルス

の美容整形法であるとのこと。両頬数か所に注射する20分の簡単な治療を受けたあと、翌日からは頬と顎がゆるゆる、なんとも奥歯に力が入らない症状でしたが、歯ぎしりは治まったのでしょうか。歯を食いしばった数十年の会社生活の後遺症(?)だったのかもしれない。ひと月後にはアイドルのような小顔美顔になるかと密かに期待をしていましたが、これには効果がありませんでした。毒が毒を制する意外性に驚いたものです。

毒と言えばコロナ。この1年、試行錯誤での未知への対応はやむなし、関係者のご苦労に頭が下がるだけです。批判非難の応酬は避けて、拳国一致で災難を克服しなければなりません。社会の多くの仕組みや制度を変えつつある悪玉ウイルスです。まだ見ぬワクチンは、コロナ以外にもどんな「毒」に効くのが楽しみです。1億総平和ボケ症? デジタル認知症? には有効かも…。

愛石界も身動きが取れずもがいています。

慎重果敢に活動を再開したグループから力を得て、「愛石クラブとよた」も僭越ながら世の活性化に貢献したいと思います。

年間200回を超す全国各地での石展も、多くが中止を余儀なくさせられました。「歯ぎしり」をする思いです。石展や探石が活動のすべてではありませんが、趣味と文化を支えるための必須行事です。「さあ、これから」とこの世界に入ってきた方々の意欲を削ぐことになるのではと懸念します。



愛石クラブとよたのロゴ入りマスク



期日 5月1日～2日  
 会場 つどいの丘（全トヨタ労連研修センター）

## 愛石クラブとよた 第25回 愛石展



会場風景



検温、手の消毒、マスク着用など、徹底的に行った新型コロナ感染対策

撮影／河合仁志



若狭竜宮石 「コロナ去れ」 7×10×6 西山 巍



土岐石 「兎」 15×11×6 大平政一



安倍川石 「泣き虫パンダ」 18×13.5×7 奥村瑠那



天竜川石 「遠山桜」 16×17×10 山内義計



雨生山石 22 × 12 × 15 日比谷照夫



矢作川石 「薰風台」 19.5 × 7 × 6.5 奥村薰績



室戸鉄丸石 「へそ湖」 13 × 6 × 10 落合東一



土岐石 「残照」 19 × 14 × 10 山内義計





天竜川石 「谷渡り」 20×10×11 西山 巍



神居古潭石 26×10×15 河合仁志



抹香石 「出現」 9×17×7 落合東一



姫川石 「東風吹かば」 28×14×10 大平政一

西山 巍 Nishiyama Takashi

(社)全日本愛石協会副理事長  
(社)日本水石協会理事  
愛石クラブとよた会長  
千歳愛石同好会顧問  
イタリア愛石協会会員  
フランス愛石協会会員

今年10月にオーストラリアのパースで開催予定だった第9回世界盆栽大会が、丸1年延期されました。コロナ禍でのこの決定は、主催者としても苦渋の判断だったことでしょう。来年の大会は2022年10月13~16日、季節が反対の南半球の10月は春、多種の草木の花の季節、主催者は西オーストラリアの野生体験も推奨する動画メッセージを流しています。

私がパースを訪ねたのは1984年2月、4年間のメルボルン駐在を終えての帰国途上でした。清潔な街並み、国立公園ピナクルの石柱群、日本の南極観測船の中継港フリーマントル、家族とともに骨休めの数日を過ごしたことが思い出されます。来年のこの大会を機に訪豪し、友人と再会したいと思いますが、双方ともにその頃は八十路の高齢、さてどうなりますやら。

オーストラリアは宝石・貴石・鉱物の宝庫、現在全国に340もの貴石愛好会 Lapidary Club があります。メルボルン在住



(左) オーストラリア海岸石 (1980年採取)、(右) 延期となった「世界盆栽大会」のポスター



(左) 私の手作り、オパールのペンダント、(右) ピナクルの石灰岩石柱群

## 世界盆栽大会 結集・前進

時に、私も近くの Mordialloc Lapidary Club に入会し、貴石研磨の手ほどきを受けました。手作りのペンダントは今も家内が大切に身に着けています。金やサファイア目当ての探石会は泥水の川の中、石切り場での化石見学、河原では金属探知機、面白い石体験でした。当時、地元では水石への関心は皆無、日本人の私の所作は興味深く眺められました。オーストラリアの水石界の現況は定かではありませんが、シドニーの The School of Bonsai Club の組織下に Suseki Australia が1996年に発足しています。来年はこの方々も水石展示を盛り上げることでしよう。楽しみです。

4年前に埼玉で開催された第8回世界盆栽大会は盛大で華やかなものでした。「日本の盆栽水石至宝展」への来場者数は4万5千513人。世界遺産PJには8千150人の署名を得ました。パースの会場ではどうした対応ができるのかを関係者と相談しなければなりません。署名活動は数集めではなく目に見える関心の継続活動です。

パースの大会スローガンは「Doornji Yoorandiny」、アボリジニ語でしょうか。英語で「Coming Together, Move Forward」  
「結集！ 前進！」

オーストラリアの国章は、カンガルーとエミューの絵柄です。どちらも後戻りはしません。「Ever onward, 「限りなき前進」の象徴です。我々が世界遺産PJもこうありたいものです。

64th

西山 巍 Nishiyama Takashi

(一社)全日本愛石協会副理事長  
(一社)日本水石協会理事  
愛石クラブとよた会長  
千歳愛石同好会顧問  
イタリア愛石協会会員  
フランス愛石協会会員

# ゴリラ石・ 愛石 Kids

延期していた「第3回小さい石の展示会」は、7月31日・8月1日に開催します。先日、石展の最終確認を行いました。段取りには「3M(難しい・面倒くさい・むなし)仕事」もたくさん、口ほどには手足が動かない高齢関係者一同がボケ防止と割り切り、準備作業を楽しみました。



伊南川石 銘「瑞雲」 26×15×12

この展示会は、「新時代の水石とは?」「世代を超えた水石とは?」「問いかけながら、文化の継承と趣味の大衆化を目指す試みです。この心意気だけでもご理解いただければ幸いです。そんな目算で数年前にSNSを始めました。先日、伊南川石(上写真)を「瑞雲」と名付けてインスタグラムに投稿したところ、あるフォロアーから「ゴリラ石と名付けるともっと人気がある」とのメッセージ。「思



(上)瑠那君とパンダ石 (下)瑠那君探石中

いもよらない見立て」と私の返信に対して「話題作りが大切」との助言が返ってきました。ウッ!。

山岳の谷間にたなびく雲は吉兆、この見立てはさほど間違いいではなく、皆さんに共感されるものと自負していましたが、思わず反応に思わず嘆息。心の中で「ゴリラ石」を否定



(上)アダム君の似顔絵石 (下)アダム君探石中

する自分の頑固さに、もう一度嘆息。大衆化への心の課題発見です。石は面白い! そんな中、「愛石クラブとよた」も面白くなってきました。6歳の奥村瑠那君の人氣が上昇中です。彼は2年前に3人のご家族とともに入会した最年少会員です。さらに昨年からはフランス・マルセイユのアダム君(5歳)が頭角を現してきました。彼はサミ・アムドウニ氏(当会会員・本誌連載中)のご子息です。写真をご覧ください。石を手にした笑顔と河原での真剣な姿が印象的です。日仏に怪童・愛石キッドが現れたのです。この2人の20年後、学業の後にどんな世界に進むのでしょうか。その時には2人の父君は65歳です。私には彼らを見届けることは叶いませぬが、親子揃って石への関心を持ち続けてほしいものです。

「ゴリラ石」よし! 「パンダ石」よし! 「似顔絵石」よし! ついでに語呂良く「三方よし」? 水石界の未来のリーダーには私の心も寛容です。

2度のワクチン接種が終わりました。世間に日常が戻れば、あれもやりたい、これもやりたいと「新年」を迎える気分です。毎年実現しなかった「一年の計」ですが、世界遺産PJの「一念」はしっかりと持ち続けたいと思っています。

西山 巍 Nishiyama Takashi

(一社)全日本愛石協会副理事長  
(一社)日本水石協会理事  
愛石クラブとよた会長  
千歳愛石同好会顧問  
イタリア愛石協会会員  
フランス愛石協会会員

小さい石の展示会会場風景



## 小さい石の展示会・ワクワク！

「第3回小さい石の展示会」を7月31日(8月1日に開催しました(展示石の写真は49頁に掲載)。会場は豊田市にある国登録有形文化財の喜楽亭。東海地区の愛石7団体からの47人・57席は秀石ぞろい、特設の「動物石」も人気のコーナーとなりました。展示会テーマ「石は面白い」を若い世代にも発信することが出来たと思います。

この石展は当初2月開催を予定し、昨年9月に準備を開始しましたが、その後、開催延期と規模見直しなど紆余曲折を経て今回に至りました。その間、高齢者へのワクチン接種が進むにつれて、主催者の肩の荷が少しずつ軽くなったものです。2日間の来場者は354人(昨年の6割)でしたが、皆さんのマスクの下も楽し気と感じました。次回も工夫の展示会を目指します。ワクワク！

石展はちょうどオリンピック開催期間中でした。無観客の五輪はいかかなものかと危惧していました。いやはや、トップアスリートたちの闘争心に圧倒されて競技に見入ってしまいました。オリンピックは格別です。その数週間前に放映されたMLBオールスターゲームも同様、大谷選手にき付けになりましたが、球場を埋める観客がマスク無しで歓喜する光景にはもう一度き付け、米国の底力を見せられました。日本の、1年遅れの「東京2020」と欧米から1周遅れのコロナ対応に淋しさを覚えました。

とにかくコロナは社会生活の計画機能を乱してしまいました。その都度、良かれと実施

した施策が予測できない現実に阻まれて結果が出ない、「合成の誤謬」が為政者への怨嗟の声に置き換わる、こんな繰り返しの1年余でした。世界が遭遇する未知の中、しばらくは試行錯誤の対応の下で自己防衛に努めねばならないでしょう。クワバラ、クワバラ！



57年前、登別のユースホステルで同宿したオーストラリアからの旅人と。左から2人目が筆者

このコロナ禍で終活が進みます。古い写真を整理し、1964年9月に登別で撮影した1枚を見つけました。その年の10月は東京オリンピック、私は暇な大学4年生、同級生と巡った北海道ではユースホステルで同宿のこの「外人」と片言の会話をしたことを思い出します。写真の2人はオーストラリア人です。今は石を楽しむ好爺爺かもしれませぬ。再会し、世界遺産PJへの協力を依頼したいものです。ワクワク！



満光寺山門

66th

西山 巍 Nishiyama Takashi

(一社)全日本愛石協会副理事長  
(一社)日本水石協会理事  
愛石クラブとよた会長  
千歳愛石同好会顧問  
イタリア愛石協会会員  
フランス愛石協会会員

## 単短探・伝承石



徳川家康公由来「雨生山石」(『伝承石』より)

接するこの地域は「奥三河」と呼ばれ、もともとは非常に「遠い」ところでしたが、最近の道路の開通で各地からのアクセスが容易になりました。奥三河中央部に豊川、南部には雨生山、東部の県境を越すとすぐに天竜川、この辺が狙い所です。成果はさておき、今は「単短探」が私の気力と体力を測るバロメーターとなりました。

奥三河の玄関口は豊川の両岸に位置する新城市です。市内東部には、探石時に庭園観賞に立ち寄る満光寺という古刹があります。そ

県外不出、密回避、コロナ禍で愛石家にもストレスが蓄積します。しからばと「単短探」を始めました。単独、短時間の探石です。考えることはどなたも同じ、川原では見知らぬ「単短探」者と出会い、マスク越しにしばしの石談義を楽しむことも度々です。

そんなわけで、愛知県内東北部の地図を見ることが多くなりました。長野県、静岡県と

の昔、この寺の早起き鶏の鳴き声で出立した家康が、武田軍の追手から逃れ、命拾いをしたとの話が伝えられています。落ち着いた境内の本堂横手の鶏舎には、いままも立派な鶏が飼育されています。豊川沿いは、16世紀後期に東西戦国大名の覇権争いの戦場になりました。家康も若いころには、この地で命からがら転戦したでしょう。そんなことを想像しながらの「単短探」は平和なものです。

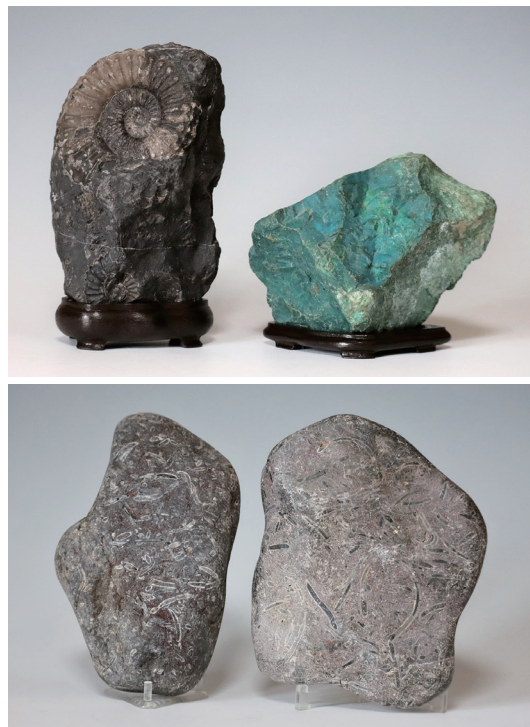
1988年に石乃美社が発刊した『伝承石』には162の名石が紹介されています。その60番目に「雨生山石・徳川家康公由来」が登場します。満光寺と雨生山は指呼の距離、家康もこの石を感慨深く眺めたと思われます。

本誌9月号で『伝承石』の再録開始と復刻版発刊を知りました。結構なことです。文化の「証」としての名石の伝承活動は大変重要です。『伝承石』が発行された33年前ですら、すでに多数の由来石が所在不明で掲載叶わず、残念であったと編者が述べています。「まして現在においておや」ということでしょうか。いま水石界の高齢化と後継者不足の悩みの中で、名石もインターネットで簡単に売買ができる環境にあります。個人の取引は自由ですし、「証」の新たな所有者が「文化」を伝播することを思えば、むしろ歓迎すべきかもしれません。しかし何度かの売買の後に散逸する可能性も現実でしょう。「所在不明」は避けなければなりません。国内外に及ぶ息の長い「たな卸」の仕組みが必要です。

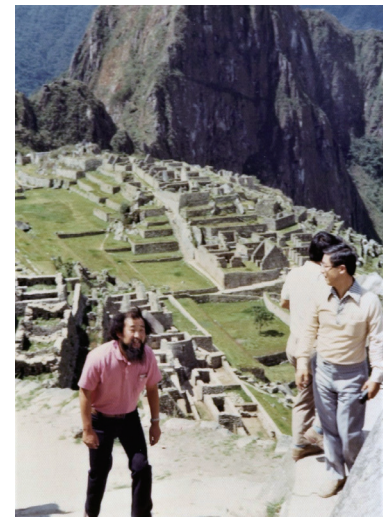
67th

西山 巍 Nishiyama Takashi

(一社)全日本愛石協会副理事長  
(一社)日本水石協会理事  
愛石クラブとよた会長  
千歳愛石同好会顧問  
イタリア愛石協会会員  
フランス愛石協会会員



(上) 露店での購入石。右はトルコ石  
(下) 海岸で自採



(上) 1976年11月、マチュピチュにて。左はガイドのA氏  
(下) 1995年12月、ガイドのA氏と同僚のT氏(右)

## 邂逅・アンデス千軒石

ペルーの自然は国を南北に走るアンデス山脈の東西で様変わりします。東はアマゾンの源流地域まで緑が続きますが、西の海沿いは雨のない砂漠地帯で、そこに首都リマがあり、ナスカやインカの遺跡が点在します。

当時私は34歳の青二才、石を始めて8年の駆け出しでした。週末は遺跡見学の傍ら「石探し」を楽しみました。露店で見つけた化石と鉱物、「安く買った」「高く売った」と双方満足気な交渉成立、何度も店に通う私は

常連客でした。

リマ郊外の川原では千軒石に似たジャグレの「名石」を採取しましたが、現地の知人宅に置いてきました。日本へ持ち返ったのは写真の4石のみ、今は、あの名石「アンデス千軒石」が気になって仕方ありません(……)

逃がした魚は大きい!?)。

た。クスコで、上司の一人がうどんを食べたいと部下に言いました。無理な話、リマに帰り馴染みの「レストラン富士」に駆け込んだものです。この店のオーナーF氏をはじめ、多くの皆さんにお世話になりながらの出張でした。

19年後の1995年には「部下」2人もそれなりの「上司」となり、私は米国に、同僚T氏はペルーに駐在していました。年末に私も夫婦はリマへ向かい、あの当時の皆さんと懐かしく再会したあと、T氏の案内で各地を訪問していた時のことです、マチュピチュで、とある人物と眼が合いました。クスコ拠点の日本人ガイドA氏でした。19年前の我々4人組が彼の開業最初の客であったとのこと、お互いの邂逅に驚き、山頂でしばし歓談しました。出会いから45年、毎年のクリスマスカードも途絶えがちです。皆さんとの再会は叶うでしょうか。幻の「アンデス千軒石」にも再会したいものです。石は「思い出

た。アンデス山中の「クスコ市街」と「マチュピチュの歴史保護区」は、1983年に世界遺産に登録されました。我々4人がここを訪れたのはその7年前の1976年11月でしたが、秘境は当時も観光客で賑わっていました。

の遺産」です。

# 世界遺産 PJ 協賛集合写真特集

2021年「世界遺産PJ」コラムで紹介できなかったグループ写真を改めて紹介させていただきます。ご協力ありがとうございました。



2021.6. モナコ盆栽クラブ (Monaco)



2021.7. アルプス (France)



2021.6. 石睦会 (名古屋市)



2021.6. 三河臯月会 (岡崎市)



2021.9. 盆栽フェスティバル (Italy, Andora)



2021.9. 盆栽フェスティバル (Italy, Arco)

2021.7. デュランス川 (France)



2021.6. デュランス川 (France)